

あ、おいしい。



水田農業経営確立対策の計画的な推進を図ろう。
直播栽培等新技術の導入と地域性を活かした米づくりを進めよう！

平成12年度

稲作情報

会津版
第2号

平成12年6月1日

「ふくしま新世紀農業・農村確立運動」県推進本部

発行：福島県の米稲作情報編集会議

編集：福島県農業試験場会津支場

21世紀の米王国会津を目指して！会津産米の更なる向上を図ろう

1 カ月予報（5月26日仙台管区気象台発表）

前半は低気圧と高気圧が交互に通る、天気は周期的に変化するでしょう。後半は前線や、低気圧の影響を受けやすく、天気のぐずつく時期があるでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は高いでしょう。

当面する技術対策のポイント - 移植栽培 -

活着は良好 早期に挿し苗をかたづけよう！！

1 生育状況

- (1) 苗の生育：平坦地の苗はやや徒長気味。山間地の苗は草丈やや短く、充実度高い。
葉数は平坦地が平年より0.2～0.4葉少ない。山間地は平年並。
- (2) 活着と生育：移植時期の気温が平年より高く、発根数は平年より多い。平坦地は発根長も長い。
主稈出葉から見た本田の生育は平坦地が平年並。山間地は平年より2日程度早い（表1）。

2 当面の技術対策

- (1) 水管理 低温や強風時以外は浅水とし生育の促進を図り6月下旬までに、目標茎数を確保する（表2）。生育、出穂遅延をまねく掛け流しは水の有効利用の点からも絶対にしない。
- (2) 施肥管理 基肥量を計画的に減肥した場合を除き、分けつ期の窒素の上乗せ追肥は行わない。
- (3) 害虫防除 イネミズゾウムシ幼、成虫の本田期防除は10株当たり4頭以上の成虫がいる場合に6月上旬までに行う。イネドロオウムシ幼虫の本田期防除は6月上旬中旬に株当たり10頭以上の幼虫がいる場合に行う。
イナゴの常発地では、6月中旬頃に畦畔周辺に薬剤を散布する。
- (4) 葉いもち防除 葉いもちの発生時期は平年並みと予想されている、しかし、気象予報からは要注意！
挿し苗（水田放置苗）は葉いもちの感染源になるので、直ちに除去する（土中に埋める等胞子が飛散しないようにする）。
いもち病防除は葉いもち防除から行うこと。予防に粒剤を使用する場合は、6月20日頃までに散布する。葉いもちを発見した場合は、直ちに散布剤による防除を行う。
- (5) 雑草防除 ノビエの残草が見られる場合には、シハロホップブチル剤により防除する。
アゼナ類、ホタルイの残草が目立つ場合は、水稻の5葉期以降に中期剤を施用する（SU剤抵抗性雑草対策）。

具体的なデータ

表1 活着状況（移植後10日の発根量）と主稈出葉日（5月19日移植）

試験 場所	品種名	発根数		最長根長		移植時葉数		5葉		6葉	
		本年 (本)	平年 (本)	本年 (cm)	平年 (cm)	本年 (葉)	平年 (葉)	本年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	平年 (月日)
会	ひとめぼれ	16.4	14.9	9.5	8.6	3.3	3.5	5.27	5.26	-	6.1
支	コシヒカリ	11.7	11.5	8.7	8.4	3.2	3.4	5.27	5.28	-	6.2
冷	まいひめ	14.4	11.2	5.4	5.2	3.1	3.1	5.28	5.30	-	6.6
	あきたこまち	16.7	12.4	5.0	3.2	3.3	3.1	5.27	5.29	-	6.4
試	初 星	16.0	12.8	4.8	6.5	3.4	3.4	5.27	5.29	-	6.4

注：あきたこまちは平年値がないため、前年値を使用

表2 有効茎の目安

品 種	地域	目 安	
		m ² 当り (本/m ²)	1株当り (本/株)
ひとめぼれ	平坦部	500～550	24～26
コシヒカリ	平坦部	430～480	21～23
まいひめ	山間部	450～500	19～21
あきたこまち	山間部	450～500	19～21
初 星	山間部	500～550	21～23

注：1株当り茎数は平坦部は株間16cm
山間部は株間14cmの値。

当面する技術対策のポイント - 湛水直播栽培 -

苗立ちは確保された 水管理と病害虫、雑草防除の徹底を！！

1 生育状況

会津支場内の5月10日播きの出芽始期は5月15日で、出芽までの日数は平成10年並に早い。苗立数は確保され、現在の葉数は3.3葉程度である。冷害試験地内の5月11日播きの出芽始期は5月18日で、平成9年並である(表3)。本年は、早播きでカルパー粉衣後の加温処理効果が高い。

現地の4月中の播種は出芽がやや遅い。5月播種は出芽が良好である。苗立ち数はほぼ確保された。加温出芽の効果が大きい。また、鳥害は多目であり、基本からはずれた管理による出芽不良で移植に切り替えたほ場もみられた。

2 当面の技術対策

- (1)水管理 低温や強風の日を除き、浅水管理で生育の促進を図り必要茎数を早期に確保する。
強還元田や湿田では4～5葉期頃に3日程度落水し、発根促進をはかる。
- (2)肥培管理 基盤整備直後田等の基肥窒素無施用田では、葉色が淡い場合には窒素成分で2kg/10a程度施用する。
基肥窒素施用田では、苗立数が少ない場合でも分げつ期の窒素追肥は絶対に行わない。
- (3)雑草防除 ノビエの残草には、ノビエ3葉期までにシハロホップブチル粒剤をやや深水で散布する。
表土剥離や藻類の発生が目立つ圃場では、ACN剤を散布する。
アゼナ類、ホタルイの防除は移植に準じる。
- (4)害虫防除 直播栽培では、移植に比べ稲体が小さいため害虫の被害は大きい。また、箱施薬のような予防散布法はないので、ほ場を見回り早期の対応が重要となる。
イネミズゾウムシは発生が早めである。被害が目立ち始めた場合には、直ちに防除する。
イネドロオイムシやイネヒメハモグリバエは、発生(産卵)を確認後防除に努める。

具体的なデータ

表3 湛水直播の出芽および生育状況

試験 場所	年次	播種日 (月・日)	出芽始期 (月・日)	1葉以上 苗立ち率 (%)	5月30日現在	
					苗立ち数 (本/㎡)	葉数 (葉)
会津 支場	本年	5.10	5.15	84.1	113	3.3
	平11	5.10	5.18	37.2	53	1.5
	平10	5.8	5.13	98.0	163	3.3
	平9	5.9	5.16	72.1	(135)	(2.9)
	平8	5.9	5.17	49.9	-	-
冷害 試験 地	本年	5.11	5.18	-	97	2.9
	平11	5.11	(5.22)	-	(166)	-
	平10	5.8	5.16	89.9	169	2.8
	平9	5.12	5.18	62.5	-	-
	平8	5.10	5.22	(67.0)	-	-

品種：会津支場 ひとめぼれ 冷害試験地 まいひめ(平12はあきたこまち)

播種法：会津支場 条播 冷害試験地 散播(平12は条播)

苗立ち調査日：会津支場 播種後20日目

冷害試験地 平成11年：播種後24日目、平成10年：播種後21日目

平成9年：播種後17日目、平成8年：播種後28日目

平成11年の苗立ち数の値は全出芽数

麦・大豆栽培の技術対策のポイント

(1) 麦類

麦類の成熟期は平年並の見込みである。適期刈取りを行い、刈り遅れによる品質の低下を防止する。

売れる麦を生産するため、調製はグレーダの網目が2.2mm以上を用いて行い、未熟粒の混入を防ぐ。

(2) 大豆

優良な種子を準備し、6月中旬までに播種する。

大豆は生育初～中期の湿害により大きく減収する。特に、転換畑では明渠による排水対策を万全に行う。

基肥窒素量は適正量を施用する。